

Ciconia 1:23-27(1992)

福井県和泉村において観察された ハチクマの秋の渡り

池田善英^{1・2}・小嶋明男^{1・3}・松村俊幸^{1・4}

はじめに

ハチクマ *Pernis apivorus* は、ヨーロッパ大陸中部・アジア大陸の中南部・フィリピン・大スンダ列島などで繁殖し、北の地方のものは冬はアフリカ北部・東南アジアなどに移動する。日本には夏鳥として渡来し、本州以北で繁殖する（高野 1981）。福井県内にも夏鳥として渡来するが確実な繁殖確認はまだなく、隣接する石川県では1991年にはじめて繁殖が確認されたばかりである（池田 未発表）。日本版レッドデータブックにも希少種のランクで掲載され、もともと個体数の少ないタカである（環境庁自然保護局野生生物課 1991）。そのため国内では、渡りや食性についての報告がわずかにあるだけで（例えば、大丸 1988, 川田 1988, 阿部 1991, 小嶋 1991a）、詳細な調査研究はほとんどない。

同種の渡り経路は、近畿以西では次第に解明されつつあるが（大丸 1988, 武田 1989, 日本野鳥の会京都支部研究部 1991）、福井県以北では断片的データが最近蓄積されるようになったばかりで、福井県東部の奥越地域についてはこれまで未知であった（たとえば、松村 1991, 小嶋 1991a, b, 笹原 1991）。1991年9月に当地域においてハチクマの渡りを観察した。今回は、1シーズンのみの記録ではあるが、今後の調査立案などに資するため観察結果を詳細に報告するとともに、県内における同種の渡りの経路の一端を推察する。

本文に先立ち、隣県の資料をご教示下さった日本野鳥の会京都支部の堀尾岳行研究部長、ならびに原稿に対し貴重なご意見を頂いた福井県自然保護センターの大迫義人氏に謝意を表す。なお、本調査は福井県内における希少猛禽類（イヌワシ *Aquila chrysaetos*）の保護管理に関する調査事業として福井県希少猛禽類調査委員会による現地調査として行なわれたものである。

調査地域および方法

ハチクマの渡りが観察された地域は、福井県大野郡和泉村の九頭竜湖南側の流域一帯であった。1991年9月22日（9:30～16:05）～23日（8:30～16:15）には、携帯無線機を用いて、のべ14人7定点による連係観察を行なった。観察には7～12倍の双眼鏡と20～60倍の

-
1. 福井県希少猛禽類調査委員会。〔事務局：〒921 石川県金沢市西泉4-135-2〕
 2. 金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻環境生物学講座。〒920-11 石川県金沢市角間町
 3. 〒919-13 福井県三方郡三方町藤井50-4-2
 4. 福井県自然保護センター。〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

望遠鏡を用い、出現個体の種類・個体数・位置・個体識別などを地図に記録した。

調査定点は、A:荷暮川中流(22日)、B:荷暮川上流(22日)、C:面谷川上流(22日)、D:久沢川上流(23日)、E:久沢川中流(23日)、F:伊勢橋北部(23日)、G:伊勢峠(22・23日)に配置した(図1)。筆者ら3名以外の調査員は、池田真弓・井上陽一・榎本二郎・大塚明子・門前孝也・横山大八の6名であった。

結果および考察

1. 渡りの概要

9月22日と23日の調査において、それぞれ53羽と46羽(合計99羽)のハチクマの渡りが観察された(表1)。渡りに限らずワシタカ類の飛翔行動、特に主たる移動方法である帆

表1. 福井県大野郡和泉村において観察されたハチクマの渡りの状況(1991年9月)。

Table 1. Numbers, positions and migration routes of Honey Buzzards observed in Izumi Village, Fukui

観察日時	個体数 (羽)	観察 ¹ 定点	飛去方位(備考)
22日 10:05-10:08	1	C	右岸稜線で帆翔後、谷を渡り左岸稜線で帆翔して西南西へ(ア)飛去した; ♂成鳥。
11:00-11:05	1	C	アに同じ。
11:13-11:16	3	C	アに同じ。
12:30-12:35	5	G	伊勢峠北部稜線で帆翔後、南西へ飛去した(イ)。
12:40-12:46	5	G	イに同じ。
13:10-13:13	9	G	イに同じ。
13:11	3	A	左岸稜線から西南西へ飛去した(ウ)。
13:43-13:53	4	A・C	ウの稜線で出現し、アの経路で飛去した; ハイタカ1羽がハチクマ1羽につきまとい、帆翔上昇後、ハチクマと同方向に飛去した。
13:54	1	A	ウに同じ。
14:05	1	C	アに同じ。
14:15-14:17	4	A	右岸稜線で帆翔後、谷を渡り左岸稜線で帆翔して西南西へ飛去した。
14:26	1	C	アに同じ; 幼鳥タイプ。
14:41-14:45	4	A・C	左岸稜線で帆翔後、南西へ移動し、アの経路で飛去した。
14:42-14:51	10	B	右岸稜線で帆翔後、南西へ飛去した。
14:59-15:02	1	C	アに同じ。
小 計	53		
23日 10:47-10:52	19	D	猿塚で帆翔後、南西へ谷を渡った(エ); ハイタカ1羽も同方向へ飛去した。
11:07-11:11	1	D	エに同じ。
11:15-11:18	3	D	猿塚南方の鞍部で帆翔後、南西へ谷を渡った(オ)。
11:20-11:25	3	D	オに同じ。
11:52	1	D	オに同じ; ツミ1羽も同時に帆翔した。
12:00-12:05	11	G・F	伊勢橋付近に出現し、羽見谷で帆翔後、伊勢峠を越え西南西へ飛去した(カ)。
12:34-12:38	4	G・F	カに同じ。
12:41	1	D	オに同じ。
12:54-12:56	2	G	カに同じ。
13:07-13:09	1	F	日ノ谷で帆翔後、西へ移動し、久沢川中流上空で帆翔した、南西へ飛去した。
13:42-13:46	1	G	伊勢橋付近に出現し、伊勢峠南部を越え、南西へ飛去した。
14:18-14:20	1	E	南部稜線でクマタカと帆翔後、ともに西南西へ飛去した。
小 計	46		
合 計	99		

1: 図1を参照。

翔 (soaring) とそれに伴う滑空 (gliding) は、上昇気流の強弱など微気候に左右される (たとえば, Harwood 1985, Heintzelman 1986, Kerlinger 1989). 今回の終日観察では両日ともに晴れており、昼を中心にした時間帯 (10~15時) のみに渡りが確認され、しかも各定地点ごとに局所的にみると、比較的まとまった時刻に渡りが見られた。ハチクマの渡りにおける帆翔と上昇気流の発生との相関は、ハチクマの渡り和其他のワシタカ類の飛翔が同一の上昇気流発生場所で、同時に観察されたことから示唆される。

また、ワシタカ類の渡りの時期や経路などには、性別や年齢による違いもあるが (たとえば, Harwood 1985, Heintzelman 1986), ハチクマの性別と年齢の判定方法については個体差など不安定要素や異論も多く (たとえば, Porter ほか 1976, 川田 1988), 今回の観察のほとんどは高空の個体であったため判定がほとんどできなかった。

なお、1991年5月には、福井県三方郡三方町でハチクマのまとまった渡りが観察されたが (小嶋 1991a), 大野市中島で行なった調査では1羽の渡りが観察されただけであった (須藤一成, 私信)。

2. 渡りの経路

ワシタカ類の渡りにおいて山岳地形は、上昇気流や障害となる稜線の存在など飛翔のエネルギー消費や、飛行の目標設定などの面から、渡りの経路や方位を大きく左右する (たとえば, Heintzelman 1986, Kerlinger 1989). 今回観察されたすべてのハチクマは、岐阜県境の主稜線に沿うように南西から西南西の方角に渡っていたことより、渡りの経路の起点は、福井県最東部の岐阜県境の稜線の中で最も標高の低いP1 (790m, 油坂峠) 付近と考えられる (図1)。

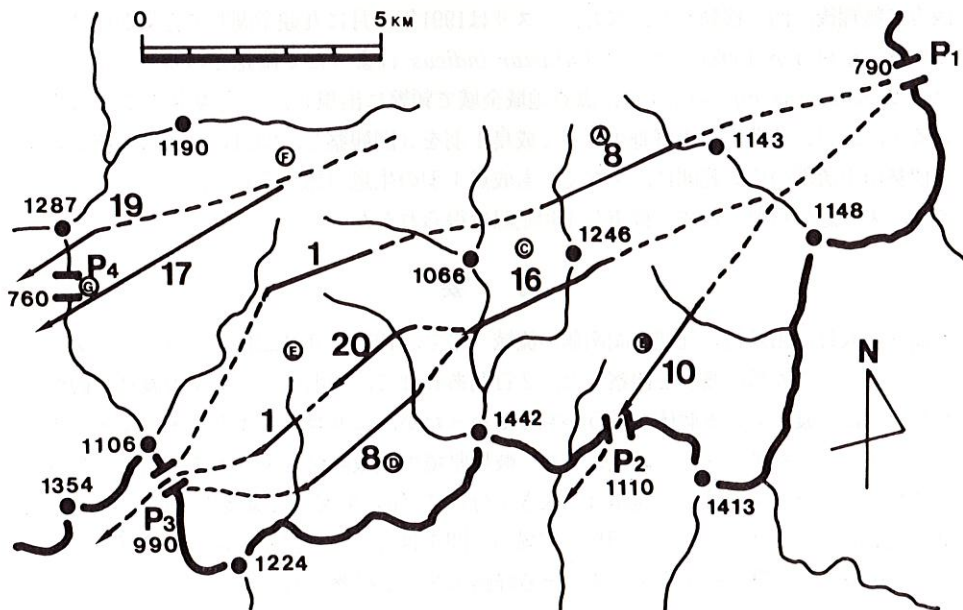


図1. 福井県大野郡和泉村において観察されたハチクマの渡り経路と個体数 (1991年9月).

Fig. 1. Routes and numbers of Honey Buzzards observed in Izumi Village, Fukui

- : 山頂・標高点 (m), P_n : 峠・最低鞍部 (m), A~G : 調査定地点
- ← : 観察した渡り経路 (観察合計羽数), ---- : 推定される渡り経路
- : 主稜線, —— : 岐阜県境

和泉村から村外（岐阜県または大野市）へ向かう最大幅約7kmの渡りの経路は、大きく3つに分けて考えることができる。1つめは滝波山（1,413m）と平家岳（1,442m）の最低鞍部であるP2（1,110m）付近を越えて岐阜県板取村へ抜ける経路（a）である。2つめは左門岳（1,224m）と屏風山（1,354m）の最低鞍部であるP3（990m）付近を越えて岐阜県根尾村へ抜ける経路（b）である。3つ目は屏風山の北方で1,286mの無名峰との最低鞍部であるP4（760m、伊勢峠）付近を越えて大野市の笹生川流域へ抜ける経路（c）である。aとbの経路では、しばらくは県境沿いに岐阜県側を、cの経路では県境沿いに福井県側を南西から西南西方向に渡ると推定される。

油坂峠を越えて和泉村へ入るまでの岐阜県内の経路、および3つの経路から嶺南地方の滋賀・福井県境にある行市山を越え三方五湖へ向かうのか、さらに南部の岐阜・滋賀県境の伊吹山へ向かうのかは（小嶋 1991b, 日本野鳥の会京都支部研究部 1991）、今後の課題である。

3. その他のワシタカ類

ハチクマの渡り以外にも、この調査中に多くのワシタカ類が観察された。そのほとんどは定着している個体と考えられたが、一部は渡りの途中であったかもしれない。以下、種ごと（トビ *Milvus migrans* を除く）に主な出現記録を列記する。

ミサゴ *Pandion haliaetus* 1羽が、23日12:27、伊勢峠東部を帆翔後、峠を越え西へ飛去した。オオタカ *Accipiter gentilis* 1羽が、23日13:10と13:58の2回、久沢川上空でツミ *A. gularis* 1羽に追われながら、ともに南西へ飛去した。他に、23日13:59、オオタカ1羽が伊勢橋西方で帆翔後、西北西へ飛去した。また、ツミとハイタカ *A. nisus* は、ハチクマと共に観察された（表1）。ノスリ *Buteo buteo* は、23日8:55、1羽が平家岳西方で帆翔後、西へ移動した。なお、ノスリは1991年4月に九頭竜湖畔で営巣が確認されている（松村ほか 1992）。サシバ *Butastur indicus* はまったく確認されなかった。クマタカ *Spizaetus nipalensis* は、調査地域全域で頻繁に出現した。出現場所ごとにまとめると、22日に荷暮川上流野野小屋谷で成鳥1羽を3回観察し、23日には久沢川流域および伊勢川上流部の広い範囲に、少なくとも成鳥1羽の生息が認められた。イヌワシについては、未確認の目撃のみで、確実な出現記録は得られなかった。

摘 要

福井県大野郡和泉村の九頭竜湖南側の流域一帯で、1991年9月22日～23日にハチクマを主としたワシタカ類の渡りを観察した。2日間あわせて、99羽のハチクマの渡りが観察された。他に、渡っている個体かどうか判らなかったが、ミサゴ・オオタカ・ツミ・ハイタカ・ノスリ・クマタカなども観察された。岐阜県境の油坂峠付近より始まる福井県奥越地域におけるハチクマの渡りの経路は、大きく分けて（a）平家岳と滝波山の間を越えて岐阜県板取村へ至る経路、（b）左門岳と屏風山の間を越えて岐阜県根尾村へ至る経路、（c）伊勢峠を越えて大野市の笹生川上流へ至る経路の3つが推察された。

引用文献

- 阿部 學. 1991. ハチクマの雛への給餌食物[講演要旨]. 日鳥学誌 39:128.
大丸秀士. 1988. ハチクマの渡り. 野鳥 (506): 20-21.

- Harwood, M.(ed.) 1985. Proceedings of Hawk Migration Conference IV. Hawk Migration Association of North America. 393pp.
- Heintzelman, D.S. 1986. The Migrations of Hawks. Indiana Univ. Press, Bloomington. 369pp.
- 環境庁自然保護局野生生物課(編). 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物, レッドデータブック(脊椎動物編). 日本野生生物研究センター, 東京. 331pp.
- 川田 隆. 1988. ハチクマの雌雄と幼鳥の識別. 野鳥 (506) : 4-5.
- Kerlinger, P. 1989. Flight Strategies of Migrating Hawks. Univ. Chicago Press, Chicago. 375pp.
- 小嶋明男. 1991a. ハチクマの春の渡りにオオワシ若鳥が出現. Birders 5(8) : 60.
- 小嶋明男. 1991b. 三方五湖のタカの渡り. Birders 5(10) : 27.
- 日本野鳥の会京都支部研究部. 1991. 1990年タカの渡り調査結果. 55pp.
- 松村俊幸. 1991. 1991年タカ渡り調査. つぐみ (80) : 10-11.
- 松村俊幸・門前孝也・加藤晃樹・久保上宗次郎. 1992. 福井県内におけるノスリの繁殖記録. Ciconia 1 : 29-33
- Porter, R.F., Willis, I., Christensen, S. & Nielsen, B.P. 1976. Flight Identification of European Raptors, 2nd ed. T. & A.D. Poyser, Berkhamsted. 184pp.
- 笹原裕二. 1991. タカの渡りルートが見えてきた. 石川の野鳥 (44) : 2-3.
- 高野伸二. 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京. 474pp.
- 武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. Strix 8 : 35-123.

Autumn migration of Honey Buzzards in Okuetsu region, Fukui

Yoshihide Ikeda^{1,2}, Akio Kojima^{1,3} and Toshiyuki Matsumura^{1,4}

On 22, 23 September 1991, Honey Buzzard *Pernis apivorus* migration was observed in Okuetsu region, Fukui Prefecture, Japan. The three migration routes were estimated: (a) the route into Itadori Village through the valley between Mts. Heike and Takinami, (b) the route into Neo Village through the valley between Mts. Samon and Byobu, (c) the route into the upper Saso River through the Ise Pass.

1. Fukui Rare Raptor Research Committee, C/O Yoshihide Ikeda, Nishizumi 4-135-2, Kanazawa, Ishikawa 921
2. Department of Environmental Biology and Health Science, Kanazawa University, Marunouchi 1-1, Kanazawa, Ishikawa 920
3. Fujii 50-4-2, Mikata, Fukui 919-13
4. Fukui Nature Conservation Center, Minamirokuroshi 169-11-2, Ono, Fukui 912-01

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...